KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2019年度 第4号

事務局：〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
大阪教育大学 教育学部 教員養成課程 橋本健一研究室内
E-mail: kelesoffice@gmail.com　学会ウェブサイト: http://www.keles.jp/
2020年3月26日発行

巻頭言

明るい方を見て、できることを粛々と

関西英語教育学会（KELES）幹事 照井 雅子（近畿大学）

第23回卒論・修論研究発表セミナーが2月9日に百名を超える参加者を得て，盛会のうちに終了しました。学生さんたちが取り組んだ研究について，27件の口頭発表と3件のポスター発表がありました。コメンテーターの先生方や参加者との質疑応答により，研究内容を振り返り，今後の課題や授業実践に良い指針を得られたことと思います。

また，長年卒論・修論研究発表セミナーの会場校としてお世話になりました関西国際大学の有本純先生にご講演をいただき，有益なお話だったとのお声を多数頂戴しました。

さて，セミナー開催時はクルーズ船の乗客が新型コロナウィルスの感染拡大防止のため船内にいた頃で，セミナーのために急ぎ消毒用アルコールを用意し，衛生面に配慮しました。その後わずかの期間で影響が世界中に及んでいることに驚くばかりです。今回のウイルスは，地球規模で解決しなければならない複雑で困難な問題の一つですが，知恵や知見を共有し，協力し合うことが必要です。そのために，英語で情報収集ができ，意見を述べる力を備えることは，やはり学校教育の大きな課題であり目標ではないかと改めて思います。

セミナーで発表・参加してくださった学生さんたちは卒業式や修了式の式典の中止が決まり，残念に思われているでしょうが，春からの新しい生活が明るく，成長の機会となりますようにお祈りしています。

私たちは全国の小中高校の一斉休校という初めての経験をしています。予定通りに新学期を迎えられるかも心配な状況です。しかしEラーニング教材やインターネットの活用など，これを機により良い新しい学習方法が検討されています。私たち教員はこの経験を今後どう活かすことができるでしょうか。数年先に笑顔でこの経験を振り返ることができるよう日々を過ごしたいと願います。

皆様，くれぐれも体調にご留意ください。

報告　関西英語教育学会 第23回 卒論・修論研究発表セミナー

開催日：2020年2月9日（日）　会場：近畿大学 東大阪キャンパス

標記セミナーが，大学英語教育学会関西支部と外国語教育メディア学会関西支部の共催にて開催されました。朝から青空が広がる好天の中，午前のセッションから多くの方にご来場いただきました。研究発表は合計30件（口頭発表27件・ポスター・デモ発表3件：発表者・タイトルはセミナーウェブサイト（http://www.keles.jp/news/keles23_thesis/）参照）で，第一線でご活躍のコメンテーターの先生やオーディエンスとの活発な議論が行われた口頭発表会場も，長めの時間設定で深い議論ができるポスター・デモ発表会場もたいへん盛り上がっていて，運営としては大きな喜びでした。またスペシャル・トークでは，関西国際大学の有本純先生をお招きし「英語教育音声学序説」というタイトルで講演をしていただき，発表者だけでなく参加者全員に力強いメッセージをいただきました。

今年もお忙しい中多数のコメンテーターの先生方にもご協力いただき，約110名の参加者が集まる盛会となりました。ご来場いただいた皆様に御礼申し上げます。また会場ご担当として準備段階・当日とご尽力下さいました照井雅子先生，牧野眞貴先生，菅井康祐先生，そして学生スタッフの皆様にも厚く御礼申し上げます。来年度も多くの学生の皆さん，またご指導下さる先生方が関わって下さることを期待しております。

＜スペシャル・トーク報告＞
「英語教育音声学序説」
関西国際大学　有本 純 先生

有本純先生は英語教育音声学序説という演題で，教育現場における英語教育音声学の指導法について解説をしてくださいました。

先生のご専門である音声学，特に英語発音指導については，日本の英語発音指導がままならない状況であることを再確認しました。具体的には，ネイティブライクな発音を求めるあまり，学習者にとってハードルが上がってしまい，積極的な発話に繋がらないということが挙げられます。

このような現状から先生は，EIL(English as an International Language)発音が日本人英語学習者に対する発音指導の到達目標だと主張されました。アメリカ英語をモデルにし，ネイティブ並みの英語発音を目指すのではなく，EILの英語発音で，ニホン英語の話し手を目指すことで，学習者は発音より発言内容に注意を払うようになり，積極的に英語を話すことができるようになります。すなわち，通じる英語能力達成のための挑戦へと繋がるのです。

有本先生は発音・発話法の導入や矯正などの指導法を入れることで，教育現場における発音指導の問題解決ができることを提案されました。導入とは，日本語と英語の音声の相違点を分かり易く説明し，EILのモデルを自分で提示することであり，矯正とは，学習者の発音が通じるかどうかをその場で適切に判断し，矯正するための指導・助言をすることであると示されました。指導者は学習者の気持ちに立ってどういった発音が困難なのか，特に日本語には強勢という概念が無いことから，感情表現の必要性を意識させることが重要であり，同時に学習者が発話しやすい環境づくりを行うことは，発音指導だけでなく，他の分野にも通じるものがあると感じました。

日本を代表する音声学者であり，発音指導の第一人者という立場から今回お話ししてくださ

った有本先生の発音指導法は大変刺激的であり，発音指導への新たなヒントがたくさんありました。

「何かをやりきることが大事」，これは今回のスペシャルトークの中で先生がおっしゃった印象的なお言葉でした。「やりきる」とは，多種多様な場面を通じて肝要なものであり，私たち若手の研究者に向けた心温まる励ましのメッセージに心打たれました。

（報告者：神戸大学大学院生 日裏 真世）

＜発 表 者 体 験 記＞

【卒論・口頭発表】

飯島 尚憲 さん（慶應義塾大学）

今回は卒修論セミナーという素晴らしい機会を提供してくださり，本当にありがとうございました。私はこれまで学内や学外で複数の研究発表を行ってきました。しかし，卒論・修論という条件で，それも英語教育に特化した発表の場というのは今回の卒修論セミナーが初めてでした。

私は高校生の頃から。大学受験をする友達を集めて英語の勉強会を開いていました。大学に入学して以降，リーディングの研究をしていましたが，どうやら，教えていて生徒は「文法」事項よりも「単語」が覚えられていない，そのために英語の力が上がっていないのだなということに気づき，それに気づいてからというものの，単語，つまり語彙というミクロな領域に焦点を当てて研究をするようになりました。

今回は「多義語のパラドックス」という題目で研究を行いました。私自身は言語教育の研究は「何？」を教えるのか，そして「どのように？」教えるのかという二つの視点があると考えており，今回の研究では，私自身は「どのように？」教えるかよりも「何を？」教えるのかということに焦点を当てて研究したことになります。当日は，司会の先生をはじめとして，研究に関する指摘をもらえて大変嬉しく，良かったと思いました。特に実験デザインのところにつきましては，さらに今後の研究の参考としたいと思います。今後とも研究を頑張っていこうと思える，素晴らしい機会を提供してくださったことに感謝致します。本当にありがとうございました。

【修論・口頭発表】

石川 佳浩 さん（大阪教育大学大学院）

私は，卒修論セミナーでは，「日英機械翻訳の効果的な「前編集」とその英作文への影響」という題で口頭発表をしました。今回の発表は，私にとっては三度目の学会発表でしたが，学会発表というものは三回やってもまだ緊張するものです。

普段の研究では，指導教員の助言を中心に研究を進めていくのですが，学会で発表をすると，質疑応答等で他大学の先生からご意見をいただくことができるので非常に勉強になります。今回も，私の発表した教室でコメンテーターをしておられた名部井先生から，いくつかのご指摘を賜り，非常に勉強になりました。次回以降の実験ではいただいたご意見を盛り込み実験設定をしようと思います。

また，20分にまとめて研究発表しなくてはならないため，発表資料を作る過程で研究の核心部分に目が行くようになり，思考がまとまるという点があると思います。本学の学位論文はページ数の上限がないため書きたいことを無限に書けますが，時間や紙幅の制限があるなかで，聞き手，読み手の内容理解に必要な最小限の情報を残すという作業も研究を見直すうえで有益でした。口頭であるため，うまく説明できなかった部分もたくさんありますが，発表してよかったと思っています。

最後に，今回の研究は指導教員の生馬裕子先生のご指導がなくては進めることができませんでした。面倒くさい大学院生である私を根気強く指導してくださった生馬先生と，名部井先生，田村先生，橋本先生をはじめとするKELESの先生方にお礼を申し上げたいと思います。

【ポスター・デモ発表】

二森 正人 さん（兵庫教育大学大学院）

私の研究では，高校生が英語の授業で行うディベート活動に取り組む過程をコミュニティへの参加としてとらえ，言語スキルだけでなく，価値観やコミュニティでの言語使用を学んでいく様子を言語社会化（Language Socialization）という理論的枠組みから記述・分析しました。対象生徒は，論理的思考や表現が強く求められる英語ディベートのディスコースを学びつつも，当事者の立場で論題について考え，率直な感情や倫理観を吐露し，葛藤していることを明らかにしました。そして言語社会化という見方が，英語教育実践にもたらす示唆についても議論できました。

今回，ポスター発表と口頭発表で迷っていましたが，質的研究で会話データが多い場合は，ポスター発表の方が丁寧に説明でき，聴きに来てくださる方とやり取りもできますよと，ゼミの指導教員にご助言いただき，ポスター発表にしました。設定されたコアタイムは１時間でしたが，その前後にも聴きに来てくださり，参加者のみなさんと２時間以上じっくり議論することができました。英語でディベートする意味や，英語でうまく言語化できない時にどのようなscaffoldingが有効か，ディスカッションの様子を分析するにはどんな理論が有効かなど，今後の研究を進めるにあたり参考になる助言をいただきました。修士論文を書き終えた労をねぎらってくださり，あたたかい雰囲気の中でポスター発表をさせていただいて感謝しています。ありがとうございました。

学会事務局からのお知らせ

◆学会費納入のお願い

新年度を迎えるにあたり，2020年度学会費納入をお願いいたします。詳しくは，同封のお知らせをご覧下さい。

2019年度分の学会費が未納の方は納入をお願いいたします。2019年度分を2月末までにお支払いいただいていない場合には，8月に開催の全国英語教育学会第46回長野研究大会での発表ができませんので，ご了承くださいませ。

◆2020年度関西英語教育学会（第25回）研究大会のお知らせ

標記研究大会が，以下の通り開催されます。多数のご発表・ご参加，お待ちしております。

日時：2020年6月13日（土）・14日（日）

会場：龍谷大学・大宮キャンパス

研究発表，ポスター・デモ発表，公募ワークショップ，公募フォーラムを募集中です。発表申込締切は5月8日（金）です。詳細は同封の発表募集チラシ，ウェブサイトをご覧下さい。

【学会企画シンポジウム】

「学校英語教育は言語教育たりえているのか
—意味の身体性と社会性からの考察—」

登壇者：柳瀬陽介先生（京都大学）・長嶺寿宣先生（熊本大学）・山本玲子先生（京都外国語大学）

◆全国英語教育学会第46回長野研究大会

標記大会が以下の通り開催されます。多くの皆さまにご発表・ご参加いただければと思います。全国の会員ではないという方もぜひ参加をご検討くださいませ。

日時：2020年8月8日（土）・9日（日）

会場：信州大学教育学部（長野県長野市）

◆編集後記

2020年度もよろしくお願いいたします！（スペースないのでご挨拶のみ）（KH）